地域ワイド

今治市など 海事展準備着々

イメージキャラクター「バリ丸」に決定！

愛媛県今治市で5月21―23日に開催される「今治海事展（BARI―SHIP）」。造船や舶用、海運などの海事産業が集積する「日本最大の海事都市・今治」を全国や世界に向けて発信し、地域振興につなげようとする試みの準備が着々と進んでいる。

白熱した討議が行われる造船部会

四国

同市内の展示場「テクスポート今治」で行われる同展は、国内最大級の海事展「SEA JAPAN」などを手掛けるCMPビジネスメディア（本社・東京、クリストファー・イブ社長）が主催し、国土交通省や海事関連団体などが後援する。また、今治市と地元の海事関連企業で構成する今治海事都市交流委員会が特別後援する。すでに、国内外の造船会社や舶用メーカーを中心に約100社の出展が決定。関連の講演会やセミナー、イベントなども実施される予定。

地元では、官民挙げて同展を盛り上げるためのさまざまな取り組みが進行中。今治市内の造船会社8社、舶用メーカー9社、そして外航・内航船社の海運事業者は、各分野別に共同で「今治パビリオン」を出展。各分野別に組織する検討部会で、ブース装飾の統一や、地元産品のタオルを記念品にするなど、「今治ブランド」を内外に発信するための方法について検討を重ねている。また、同展開催を市民に知ってもらう目的で、イメージキャラクターの名前を公募、このほど「バリ丸」＝イラスト＝に決定した。

今治市海事都市交流委員会は、開催最終日の23日が土曜日となるため、今治市内全域で併催イベントを実施。今治造船と新来島どっくでは工場見学会と竣工直前の船内見学会、檜垣造船では工場見学会、浅川造船では進水式見学会、渦潮電機と潮冷熱では工場見学会などが実施されるほか、「海王丸」の一般公開も行われる予定、いずれも市民が自由に参加できる。CMPビジネスメディアの協力を得て、23日は今治海事展が市民に無料開放されることも決定している。

今治市では、次世代の人材確保・育成や地元海事産業振興を目的に、市内の小・中学生を対象に、イベント会場と同展を結ぶ無料バスを運行するほか、全国の海事都市に呼び掛けて「海事都市サミット」の開催を企画するなど、同展と併催イベントを全面的に支援していく。

1月管内 輸出額半減 自動車・部品大幅減

名古屋税関

中部

名古屋税関が公表した2009年1月の管内貿易概況は、1月分の輸出額が自動車・自動車部品などの減少により、前年同月比52％減の7576億円に落ち込んだ。管内の前年同月割れは6カ月連続で、深刻さを増す景気停滞を反映した数字になった。

管内輸出のうち主要品目の自動車は、全地域の減少により数量では前年同月比52％減、金額でも同62％減、2347億円と大幅な落ち込みを見せた。自動車部品についても、全地域で減少し金額で前年同月比53％減の大幅減となった。

一方、輸入額は原油・粗油などの価格下落の影響もあり、前年同月比33％減の5732億円、3カ月連続の減少。主要品目の原油・粗油は数量では前年同月比2％の減少、金額では61％減、593億円だった。価格動向を見ると1キロリットル当たりの通関単価は前年同月の約6万3800円から6割下落し約2万5200円。1バレル当たりの単価は44・28ドル。

石油ガス類は数量では前年同月比で16％減、金額では30％減の718億円と大幅に減少した。

管内港湾のうち最大の名古屋港は、輸出額が49％減の4528億円。輸入額は30％減の3177億円となった。前年同月割れは輸出が6カ月連続、輸入が3カ月連続。中部空港は輸出額が57％減の373億円、輸入額が35％減の449億円だった。

愛知・伊良湖港の観光交流促進計画 みなと振興交付金対象事業に認定

愛知県・伊良湖港の「観光交流拠点促進計画」が国土交通省港湾局から「みなと振興交付金」の対象事業に認定され7日、同県田原市で認定証の授与式が行われた。

みなと振興交付金は、港の振興を通じて地域の活性化を図る港湾所在の自治体の取り組みを支援する制度として、2007年度に創設された。同制度に基づき、伊良湖港の港湾管理者である愛知県と田原市が作成した同拠点促進計画が今回、対象事業に認定された。

事業期間は08―13年度で、全体事業費は約5億2000万円。伊良湖港伊良湖地区で海洋レクリエーションを通じた観光交流の促進、周辺観光施設などとのネットワーク強化による地域の振興を図るため、浮桟橋の整備や緑地・臨港道路の高質化改良を実施。また、魅力ある親水空間の形成を促進し、来訪者の拡大を図るための提案事業（情報提供施設・植栽）を一体的に実施する。

「厚肉ピーマン」輸入 6年連続全国トップ

門司税関管内

九州

門司税関によると、2008年の厚肉ピーマン（パプリカ）の輸入シェアで同税関管内の実績が全国トップとなった。数量・価額ともに03年から6年連続で全国首位という。

08年の門司税関管内のパプリカ輸入数量は1万5186トンで前年比8・7％増、価額が52億円で8・6％減。全国の税関別での同税関の輸入シェアは数量が67・7％、価額が61％だった。00年以降の管内での輸入は、年ごとに多少増減があるものの、近年は1万4000―1万5000トン前後、価額は50億円前後で推移している。

国別にみると、管内では韓国からの輸入シェアが数量で99・4％、価額で99％とほぼすべてを占めた。次いでオランダ（シェア0・4％）、ニュージーランド（0・2％）の順。業界によると、韓国からの輸入が多いのは、距離が近く、地の利を生かして新鮮なものを安く販売できることや、日本ではパプリカがあまり生産されていないことが理由という。

港別の輸入シェアは、全国第1位が下関港で数量が55・2％、価額が50・3％と過半数を占めた。次いで成田空港、博多港の順となっている。下関港で通関されたパプリカは、そのほとんどがトラック便で関東や関西に輸送されている。

下関港の輸入通関実績が多い理由について、業界関係者は①下関港は迅速通関体制や物流ノウハウが官民とも成熟しており、航空機利用並みのリードタイムが確保されている②釜山―下関間に毎日フェリーが就航するなど、韓国との定期航路が充実している③関東、関西へトラック便で運送しても、航空機利用より費用が少なくて済む―などを挙げている。

08年建造量 前年並み確保

九州運輸局管内

九州運輸局がまとめた管内の鋼製船舶建造実績によると、2008年建造量は540万8000総トンとなり、前年比1％減とほぼ前年並みとなった。08年上期までの堅調な海運市況を背景にバルカーなどがけん引し貨物船で7％増の337万8000総トンと増加。一方、油送船は202万3000総トンと11％減だった。

受注量（契約ベース）は501万7000総トンで23％減だった。このうち、貨物船は24％減の394万総トン、油送船も22％減の105万1000総トンとそれぞれ落ち込んだ。

08年12月末現在の手持ち工事量は、1年前に比べ0・2％減の1402万4000総トン。貨物船は7％増の1031万5000総トン、油送船が17％減の368万4000総トンとなっている。

プロフィル 関西

「姫路はお城だけじゃない」

みずた・ゆういちろう　87（昭和62）年、京都産業大学経営学部卒、兵機海運入社。92年飾磨海運入社。取締役港運部長、海運部長、代表取締役専務などを経て06年5月から現職。兵庫県出身。44歳。

飾磨海運社長 水田 裕一郎氏

今年で開港50周年を迎える姫路港。港湾管理者の兵庫県は2008年8月、姫路市や姫路商工会議所などの関係官民と共同で、井戸敏三兵庫県知事を会長とする50周年記念事業実行委員会を設立。市民が港に親しむことができるさまざまなイベントを計画している。

春から夏にかけて行われる記念事業の数は90以上。実行委員会の一員として記念クルーズや集客イベントの企画、PRなどを務める飾磨海運の水田裕一郎社長は「市民の目を港に向けさせるチャンス」と意気込む。

「今年1年間だけの一過性のお祭りとして終わらせるのでなく、市民が港に目を向けるようになるきっかけをつくりたい。特にイベントがなくても人が継続的に港に足を運ぶような仕組みづくりが必要。港を身近に感じてもらう中で、市民からの港の活性化への意見を取り入れることもできるのではないか」

「開港50周年」の冠を付けたイベントは5月1日の記念式典をはじめ、ステージショーや出店、体験クルーズ、展示会などを行う「スプリングフェスタ（仮）」、7月の「海の日」行事など、多岐にわたる。その中でもひときわ思い入れがあるのが「ふじ丸」でのクルーズという。

7月26日に出発する「屋久島クルーズ」は姫路港発着としては初めての宿泊型クルーズ企画。400人の募集枠は1月の発売から20日足らずで完売。すでにキャンセル待ちが出る状況となっている。広報を務めた水田さんもこの売れ行きに驚きを隠せないようだ。

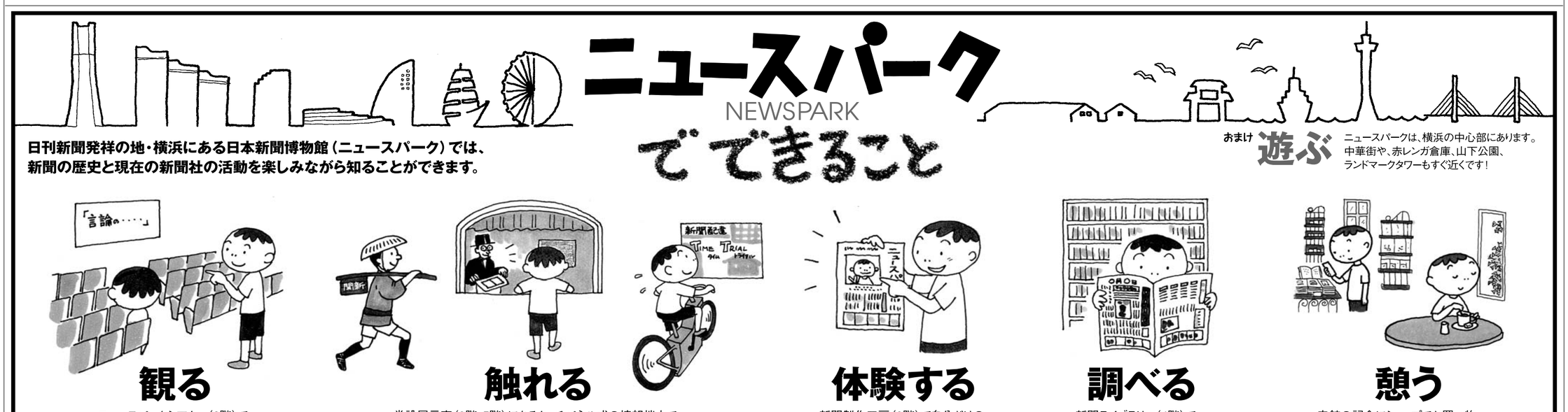
「人気の屋久島クルーズならば、ビジネスとして成り立つと予想はしていたが、これほど早く完売するとは。地元の方々をはじめ、リスクを抱えつつ未経験だったクルーズ旅行の企画・販売を手掛けてくれた神姫バスにも感謝したい」

この企画の人気を受け、将来的な目標として考えているのが、国内クルーズの定例化だ。

「神戸港より姫路港が近い兵庫県加古川市以西には、人口80万―100万人の市場がある。この規模ならば定期的なクルーズがビジネスとして成り立つのではないか。『開港50周年』ということで、市や県の目もこれまで以上に港に向けられている。今回の企画を成功させ、定期的なクルーズ需要の掘り起こしにつなげていきたい」

記念事業のプレイベント的意味合いで、08年11月、所属する姫路商工会議所青年部の事業として姫路港周辺の遊覧ミニクルーズに小学生ら親子300人を招いた。ガイドを務めたのは姫路港で長年働く港運会社の職員。集客用チラシのキャッチには「もう一つの顔『みなと姫路（まち）』を楽しもう」の文字が躍っている。

「私自身、姫路港で育ったものだから『姫路はお城だけじゃない』と言いたい気持ちがあります。子供のうちから地元のことをもっと知ってくれれば、うれしいですね」



日刊新聞発祥の地・横浜にある日本新聞博物館（ニュースパーク）では、新聞の歴史と現在の新聞社の活動を楽しみながら知ることができます。

おまけ 遊ぶ　ニュースパークは、横浜の中心部にあります。中華街や、赤レンガ倉庫、山下公園、ランドマークタワーもすぐ近くです！

観る　ニュースパークシアター（2階）で言論の自由をめぐる歴史の旅を。

触れる　常設展示室（3階・5階）にあるタッチパネル式の情報端末で、新聞に関するクイズやゲームを楽しもう。

体験する　新聞製作工房（3階）で自分だけの新聞を作ってみよう。

調べる　新聞ライブラリー（4階）で新聞について詳しく調べよう。

憩う　来館の記念にショップでお買い物。疲れたらカフェで休憩を。（2階無料ゾーン）

中学生以下は入場無料●土・日曜日・祝日はファミリー料金で入場できます

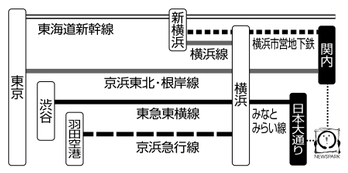
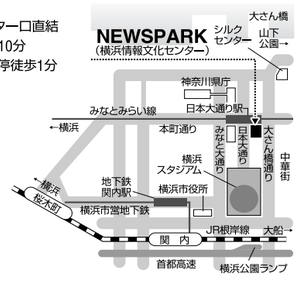
日本新聞博物館
The Japan Newspaper Museum
NEWSPARK
〒231-8311 神奈川県横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター
Tel.045-661-2040 Fax.045-661-2029 http://newspark.jp/newspark/

ニュースパークの入場料

一般・大学生（20人以上）	500円（400円）
高　校　生（20人以上）	300円（200円）
小・中学生	無料

●ファミリー料金（土・日曜日・祝日）
➡中学生以下同伴の保護者2人で500円
※同伴の保護者1人、もしくは3人目以降は1人400円。
●シルバー（65歳以上）、リピーター（前回の入場券提示）は100円引
※障害のある方とその付添者1人は無料です（手帳を提示）。
※20人以上の団体、バス駐車場利用の場合は事前申込みが必要です。
※割引の併用はできません。

ニュースパーク・新聞ライブラリー・NIE全国センター利用案内
開館時間▶午前10時～午後5時（ニュースパークの入場は午後4時30分まで）
休館日▶月曜日（祝日・振替休日の場合は次の平日）、12/29～1/4。
※新聞ライブラリーは毎月最終火曜日も休館（前日または当日が祝日・振替休日の場合は水曜日）、NIE全国センターは日曜日と祝日（土曜日を除く）も休館。
●新聞ライブラリー、NIE全国センターの入場は無料です。

詳しくはニュースパーク（045-661-2040）までお問い合わせください。

交通アクセス
●みなとみらい線「日本大通り」駅情文センター口直結
●JR根岸線・横浜市営地下鉄「関内」駅徒歩10分
●横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」バス停徒歩1分
●首都高速「横浜公園ランプ」車3分